

鳥屋

[訳] 神西 清

[作] アントン・チェーホフ

[演出] 芦口十三 (OtoOpresents)

鳥屋のこまごま  
1

# ワーニャ 伯父さん

2013.11.2(土) - 4(月祝)

エルパーク  
仙台  
スタジオホール

OtoOpresents/鳥屋

[助成] 公益財団法人 仙台市市民文化事業団

“百年、二百年あとから、この世に生まれてくる人たちは…ありがたいと思ってくれるだろうか…”

“たとえ人間は忘れても、神さまは覚えていてくださいますよ。”

鳥屋のこてん1

# ワーニャ伯父さん

[作] アントン・チェーホフ

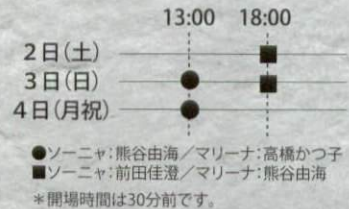
[訳] 神西 清

[演出] 芦口十三 (OtoOresents)

[出演]

ワーニャ	白鳥英一
アーストロフ	紺野鷹志 (劇団航海記)
ソーニャ/マリナー	熊谷山海 (劇団三万年計画)
ソーニャ	前田佳澄 (演舞集団紅神楽)
エレナ	青柳奈美
テレギン	八尾坂 彰 (シニア劇団まんざら)
マリナー	高橋かつ子 (劇団やんま)
ヴォイニーツカヤ夫人	土田美代子 (シニア劇団まんざら)
下男	伊藤 哲 (おはなしてっちゃん)
セレブリキヨープ	藤原 貢 (劇団やんま)
照明	高橋亜希
舞台監督	高橋 亨
美術・衣装	ハリカネミホ (Zunda)
演出助手	須藤清花、土田美代子 (劇団まんざら)
演出補・音響	へも (のっぽ)

2013.11.2~4(土日月祝)四回公演



エルパーク仙台6F スタジオホール

仙台市青葉区一番町4丁目11番1号 141ビル(仙台三越定禅寺通り館)  
仙台市営地下鉄 勾当台公園駅下車(南1番出口より地下道で連絡)

[チケット料金]

2,500円 一般  
1,500円 学生(19~22歳)要学生証・身分証明書提示  
1,000円 高校生以下(~18歳)要学生証提示

\*当日は500円増し

4,500円 ペア割引(同じ回で二名様ご観劇)

6,000円 トリプル割引(同じ回で三名様ご観劇)

\*ペアトリプル割引は、事前予約のみです。(インターネット、電話予約)当日の発券はございません。

1,000円 リピーター割引(もう一度観て下さるありがたいお客様へ)

\*ご観劇後でも、満席でない限りはお出しします。

[ご予約方法]

-CoRich舞台芸術! 予約フォーム  
PC: <https://ticket.corich.jp/apply/47432/>  
携帯: <http://ticket.corich.jp/apply/47432/>



-電話予約

-メール予約 (お名前、ご連絡先、日時、券種、枚数をお知らせ下さい)

-せんだい演劇工房10-BOX (一般、学生、高校生以下)

-火星の庭 (一般)

-出演者・スタッフ (全券種)

[問い合わせ]

TEL: 090-8255-6304 (白鳥)  
MAIL: [shiratorieichi@gmail.com](mailto:shiratorieichi@gmail.com)

ブログ「白鳥英一の日々々々」  
<http://plaza.rakuten.co.jp/otoopresents/>  
F Bは、「白鳥英一」「鳥屋」で検索を!

[企画・制作] OtoOresents / 鳥屋

なんでワーニャ伯父さん? なんで鳥屋? ~ご挨拶に代えて…

「ワーニャ伯父さん」は、ロシアの劇作家アントン・チェーホフが100年以上前に書いた劇です。彼の四大戯曲の一つです。「絶望から忍耐へ」、「忍耐から希望へ」というチェーホフ作品に共通するモチーフが描かれています。混乱時に多く上演されるそうです。本作は初め、「森の精」として上演されましたが不評だったようで、その時の戯曲では、ワーニャはヒストル自殺をして果てています。書き直された台本では、美人の役が、不美人になり(ソーニャ)、ワーニャも死ぬことはありません。ラストのソーニャのセリフは、美しいものです。

鳥屋のこてんは、「古典をこてんと転がして遊ぶシリーズ」の元良さを最大限に保持しつつも大胆にカット、新演出を加えました。読み込むうち、昔にもロシアにも当たり前ですが、ひとがいたということ、そして、ひとの感じることはそれほど変わってはいないということに改めて感じました。

鳥屋旗揚げ前夜、こんな一文を書きました。「古びた店内、棚の上には鳥一匹。ここは鳥屋でございます。……もちろん白鳥英一のプロジェクトであることは間違いありませんが、「鳥屋(とりや)」としたのには他にも理由があります。

歌舞伎の用語に「鳥屋(とや)」とあり、それは花道の、のれんの奥の楽屋のことで、そこでは俳優が化粧を直し、今から飛び出す気をする。その準備をする大切な場所だとのこと。であるならば、自分一人のことではない、よし「鳥屋」としよう…。

演劇は一人では作れません。今回も多くの仲間を得て、稽古場は賑やかです。

未筆ではありますが、なんかコメディ的でもあるんですね、この劇。劇場で、みんなでお待ちしています。

鳥屋主人 白鳥英一

白鳥英一  
(俳優、ナレーター、ファンシリーター、劇作家、演出家)

1971年生まれ、宮城県仙台市出身。東北学院大学教養学部言語学科中退。1989年より演劇を始める。劇団1、Q150を経て、OtoOresents旗揚げ。作演出時は、「芦口十三(あしのくちじゅうぞう)」と名乗る。来年、演劇人生25周年。

鳥屋とは…

2011年12月発足。白鳥英一の出前、アウトリーチ活動をする際の名称。主な活動は、小学校、児童館、市民センター、高齢者施設への出前、WS、演劇上演。

干支をモチーフに毎年1、2本のペースで劇を生み出し上演する「おとぎ語りシリーズ」(代表作「おぼろ月・龍の嫁」)。他にも、白鳥英一ひとり芝居「さいこのじゅぎょう」、こてんシリーズなど。

[助成] 公益財団法人 仙台市民文化事業団